

# 第 13回 グリーン購入大賞 応募用紙

記入日: 2011 年 7月 5日

部 門	1	大手企業	
	2	中小企業	
	3	行政	
	4	民間団体・学校	
	⑤	協働プロジェクト	
<p>※部門「該当するものひとつに○」を付けてください。</p>			
応募 テーマ	①	グリーン購入のユニークな取り組み	
	②	グリーン購入を促進させる環境配慮型製品・サービスの開発とその普及拡大の仕組み	
	3	グリーンコンシューマーの育成・増加への取り組み	
	特別テーマ	地方公共団体におけるグリーン購入の取り組み	
<p>※応募テーマ「該当するものに○」を付けてください(複数でも可)。</p>			
応募者の プロフィール	団体名	(フリガナ) シヤダンホウジン シガケンシャカイシュウロウジギョウシンコウセンター 社団法人 滋賀県社会就労事業振興センター	
	<p>※プロジェクトでの応募の場合は、こちらにプロジェクトに参加している主な団体名をご記入下さい。 プロジェクト名: エコラボはーとしが 滋賀グリーン購入ネットワークとの協働</p>		
	応募担当者 連絡先	所在地〒	
		部署名:	役職名:
		氏名(フリガナ):	
		電話番号:	FAX番号:
		メールアドレス:	
	ホームページ	<a href="http://www.selp-shiga.net/">http://www.selp-shiga.net/</a>	
	資本金(企業のみ)		
	従業員・職員数		
<p>事業内容(※行政の場合は、記入は不要です):</p> <p>滋賀県内で福祉的就労を行っている就労継続支援事業所、就労移行支援事業所、授産施設等(以下、障がい者就労支援事業所等)は約 150 カ所あり、そこで働く障がいのある方の月額平均工賃は約 16,000 円という状況にあります。作業の請負、自主商品の開発や販路の拡大、職員の研修等を個々の事業所単独で行うには限界があるため、事業所間のネットワーク化を進めると共に、受注や販路の拡大、職員の研修、相談等の事業を行い、障がい者就労支援事業所等の活性化を図り、障がい者の自立に寄与することを目的として、1998 年に(社)滋賀県社会就労事業振興センターは設立されました。</p>			

グリーン購入の  
取り組み状況

※応募団体及びプロジェクトとしてのグリーン購入の取り組み状況を簡単にお書き下さい。

環境にもよく、また働く障がいのある人、さらには地域や事業に携わる人により福祉と環境の融合をさせた事業を展開している。具体的にはペットボトルキャップリサイクル事業を実施し、福祉（障害者作業所）が協力団体・企業に設置された回収箱のペットボトルキャップを回収・選別・洗浄し、それを提携企業によって製造されたりサイクルプランターを利用して、作業所が製造した土に花を植えたプランターのリース販売事業を実施している（HANA-WA プロジェクト）。夏は花ではなく緑のカーテンにしており温暖化防止に寄与している。



<エコプランター>



<植栽終了後の記念写真>



<協力企業の方からの回収>

## 応募内容 (前ページを含め、合計4ページ以内で記述して下さい。図や写真も使用可能です。)

### 1. 応募する活動の名称・タイトル

環境と福祉の融合によるグリーン購入促進の取り組み～エコラボはーとしがの取り組みを中心に～

### 2. 活動の概要

#### <事業のきっかけ>

滋賀グリーン購入ネットワークの取り組みのなかで、環境負荷の少ない商品を選び使用するだけでなく、そもそもムダな資源を使わずゴミの減量にも寄与する取り組みができないかと検討が始まる。また、その取り組みで扱う商品は出来る限り多くの企業が参画できるようにこの企業・団体・行政でも使う商品を検討し、結果コピー用紙が対象となった。偶然にも滋賀グリーン購入ネットワーク会員企業で、コピー用紙を県内で製造している企業の協力も得られることになり具体化することになる。

一方、滋賀県内にある障がいのある人が働く産施設等では、約3,000名の方が日々様々な仕事に取り組むものの、一ヶ月の平均工賃は約15,000円と低く、地域の企業や団体等との連携により事業を活性化させ障がいのある人の所得の向上が大きな課題となっていた。

そのため、この箱無しコピー用紙を配達する担い手として滋賀県内の作業所が手を上げ、2006年のテスト配送を実施後、2007年から本格的に事業を展開することとなった。

#### <目的・ねらい>

・障がいのある人を企業が直接雇用するだけでなく、普段使用するものを無理なく購入することによって、さりげない社会貢献、地域貢献に取り組むことができる事業を実施することによって環境にも福祉にもよい取り組みを実践。

ポイントとして…

- ① 環境の視点…箱無しコピー用紙を注文することでゴミの減量に寄与(一箱で300g<sup>2</sup>のゴミの減量)
- ② 障がい者の仕事おこし…箱無しコピー用紙を注文することで障がい者の所得に還元
- ③ 地産地消…箱無しコピー用紙を注文することで地域企業から出荷、納品
- ④ 社員共育…箱無しコピー用紙を注文することで障がいのある人が納品。障がい者についての福祉教育

**3.活動による成果・効果(できるだけ具体的・定量的な内容をご記入下さい。)**

事業開始から4年が経過し、現在は事業に取り組む(箱無しコピー用紙をご購入いただける)企業・団体は2011年5月末現在で54企業・団体であり、2010年度の売上は約2,000,000円となっている。売上から計算すると約280kgのゴミを削減することができた。今後さらに参加企業・団体を増やすことによりさらなるゴミの減量に貢献していきたい。

**「エコラボはーと・しが」 ～箱なしコピー用紙 かよい箱プロジェクト～  
プロジェクト参加企業・団体数**

2007年6月 事業開始時	2007年10月	2008年7月	2011年4月
16企業・団体	26企業・団体	42企業・団体	54企業・団体



< 配送準備風景 >



< 車に積んで出発 >



< 納品風景 >

また、この事業がきっかけとなり、企業と地域の障がい者作業所の関係が構築され、他の事業でも連携して取り組む事例が生まれたり、日々の企業・福祉の連携が強化された。

具体的には、障がい者作業所が製造・販売している焼き菓子や羊羹等のお菓子を詰めた「置き菓子 BOX」を設置し、配達時に商品の補充や点検、集金を実施する「リラックス BOX 設置・販売事業」もスタートするなど作業所で働く障がいのある人の所得の向上につながる他の事業にも発展している。



< リラックス BOX >

**4.活動に関して、①先進性・独自性、②継続性・発展性についてご記入下さい。(各200字程度)**

**①先進性・独自性**

「環境」と「福祉」の融合によって、障がいのある人を企業が直接雇用するだけでなく、普段使用するものを無理なく購入することによって、さげない社会貢献、地域貢献に取り組むことができる事業を実施することによって環境にも福祉にもよい取り組みを実践している。

また企業・団体への福祉に関する啓発を、事業を通じてさげなく実施をしている。

**②継続性・発展性**

今後も参加企業を拡大させ、ゴミの減量に貢献していきたい。

また、現在はコピー用紙のみの配達であるが、あわせて他の環境に配慮された商品を配達するなどのさらなる事業展開を検討していく。さらに、配達するコピー用紙を現在の再生紙だけでなく、間伐材や琵琶湖の葦を原材料にした滋賀ならではの紙にするなど、より環境によい商品を提供していきたい。